



(奈良)

調査対象としたのは、東西五・六m、南北四五・八mの本調査区、及び拡張区の計約三一六㎡である。検出遺構は、調査区南端の大溝(三条大路北側溝)、掘立柱建物五棟、その他の柱穴二九基、溝六条などである。

今回木簡が出土したのは、

## 奈良・平城京跡左京三条三坊十二坪

- 1 所在地 奈良市大宮町四丁目
- 2 調査期間 一九九〇年(平二)九月〜一〇月
- 3 発掘機関 奈良県立橿原考古学研究所
- 4 調査担当者 平松良雄・松本美賀
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代後半〜平安時代前半
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は平城京左京三条三坊十二坪の南西部に相当し、調査区南端は三条大路に相当している。マンション建設に先立つ発掘調査で、

三条大路北側溝と推定される東西方向に走る大溝からである。大溝の規模は幅三・三m、基底部で幅一・六m、深さ一・三mを測るもので、木簡は大溝南辺の底部直上の淡灰色砂質土層より出土した。淡灰色砂質土層中には他に多量の木片・木製品・植物遺体・土器片が含まれている。多量の木片中、現在までに木簡として確認できたのは二点である。

### 8 木簡の積文・内容

- (1) 味酒酔□

- ・ 有好 □  
 □ 馴 □ (鳩カ)

(73) × 23 × 5 081

- (2) □ (鷹カ)

- (氏カ)

(88) × 11 × 3 081

積読については京都教育大学和田萃氏のご教示をいただいた。なお、今回の報告にあたり、積文の記載方法及び表裏を一部訂正した箇所がある。今後はこれによらねたい。

### 9 関係文献

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館『大和を掘る——一九九〇年度発掘調査速報』(一九九一年)

(平松良雄)

民少自石

(2)

鷹燭安斤

有分  
川  
馬  
年

(1)

水  
酒  
醉